

景況レポート

(6月分・情報連絡員80名)

製造業では好転業種はなく、 全体景況DI値は横ばい

【概況(全体)】

6月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが5.0% (前回調査10.0%)、「悪化」が35.0% (同40.0%)で、業界全体のDI値は-30.0となり、前月調査と比較し変化はなかった。

非製造業で全国及び東北・北海道ブロックを上回っているものの製造業で景況感が後退したことから、全体の景況DI値については低調に推移した。

【業界別の状況】

好転業種については石油小売、旅館・ホテルなどの4業種にとどまり、製造業では好転とする業種はなかった。全体での景況は好転割合、悪化割合ともに減少したが、収益状況については悪化割合が増加した。原材料価格や人手不足に伴う人件費の負担がコスト増加につながっている。幅広い業種で景況感の悪化が見られる中、消費増税や働き方改革への対応を懸念する声も多い一方、一部に増税前の駆け込みと思われる需要も見られつつある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-30.0	-28.3	-28.9
製 造 業	-46.9	-33.7	-39.0
非製造業	-18.8	-24.1	-23.3

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業							
非製造業							

【凡例】

快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り 10未満
 雨 10未満
 雷雨 30以下

【天気図の見方】

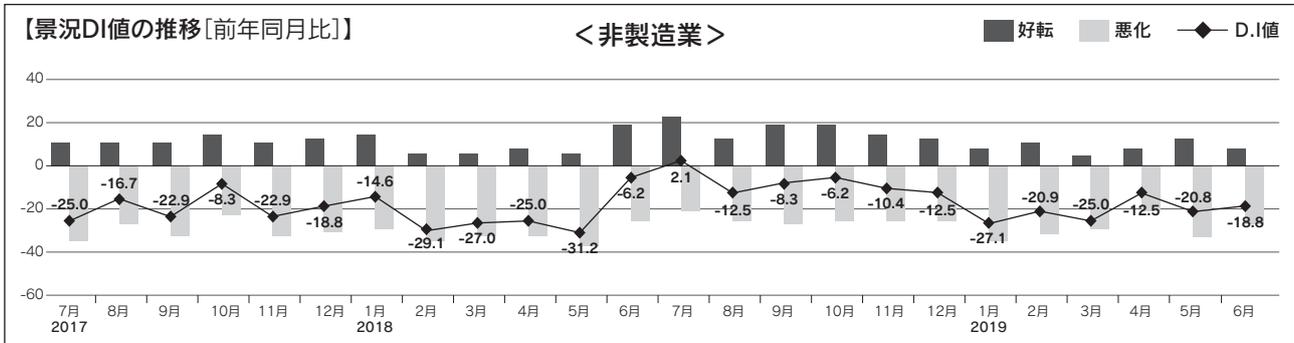
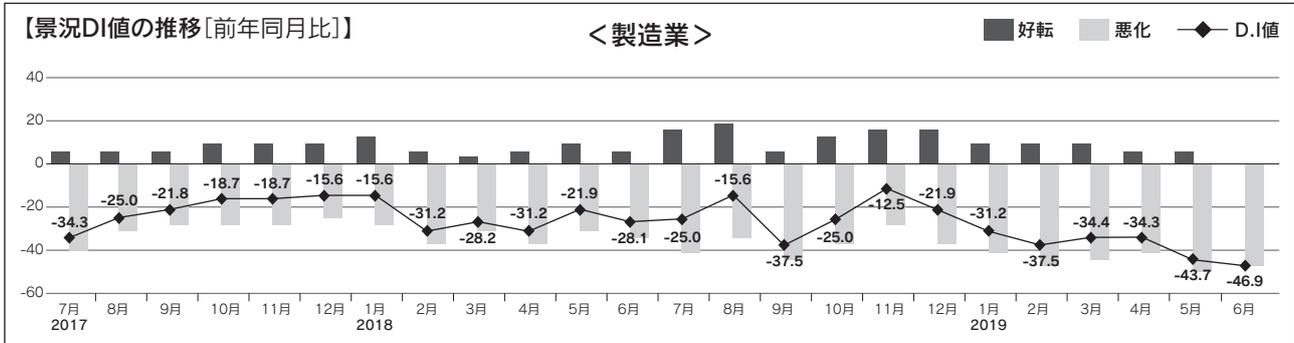
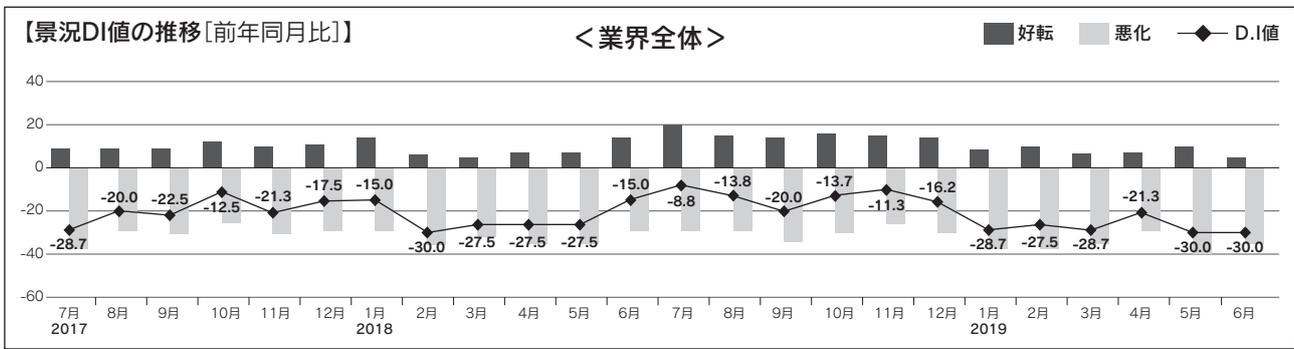
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食 料 品 (パ ン)	気温が高く、売上には厳しい状況であったが、新製品効果で、前年並みまで回復した。原料、輸送費の値上げが続いており厳しい経営が続いている。
食 料 品 (精穀・製粉)	大型連休明けから売上減少が続いている。需要低迷が続いている中、原料・資材の値上げもあり、厳しい状況となっている。
織 維 工 業 (ニ ッ ト)	受注量は前年並みで、短納期・小ロットでの発注が多く、対応に苦慮している。優秀な人材の確保・育成が必要であるが加工賃が上がらず、人件費の上昇分を吸収するのに苦戦している。
織 維 工 業 (織 維)	発注数量が抑え気味に感じられる。9月は納品が集中しているが、それ以降は不安がある。
木材・木製品 (外 材)	賃貸住宅建築が激減したものの好調な戸建需要、また店舗の木質化で非構造用フロア合板の受注が増加するなど、合板の荷動きは活発化している。メーカーではフル生産状態が続いているが、在庫水準は前月比、前年同月比ともに減少し、1ヶ月を下回るなど不足感は続いている。
木材・木製品 (家 具)	県内の商業施設、住宅関連で発注される案件は低調で、加えて、大都市圏からの発注も引き合いから推測していた想定よりも低い状況であった。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	6月の出荷数量は前年同月比86.7%。4~6月累計で89.8%と依然低い数字となっている。大館市役所、県南地区の災害復旧工事で全体の数量をカバーしているが、大型工事が予定されている秋田中央地区の出荷が鈍い。
鉄鋼・金属 (機械金属)	公共工事の受注ができており、民間工事とあわせて各社とも期待感を増している。受注増加の反面、材料費の値上がりや材料確保などコスト面や調達を的確に対応しなければならない状況にある。
一 般 機 器 (金属加工)	受注面では前年同月比30%程度の減少、先行きも厳しい環境下にある。取引条件も短納期の物品が多く、単価についても厳しい環境にある。
その他の製造業 (曲げわっぱ)	既存の定番商品の売上が落ちてきている。各社、弁当箱以外の新商品や企画品を模索している。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (商業卸)	売上が減少している上に価格競争でこれまでの利益確保が難しく、経費削減に努力している状況にある。
卸売業 (自動車中古部品)	鉄価格が4回下落した。対前年同月との比較ではトン単価11,000円の下落である。使用済自動車の在庫では60%以上が軽自動車であった。
小売業 (自動車)	6月の新車販売台数は、登録自動車2,203台(前年同月比93.9%)、軽自動車1,871台(同90.6%)、合計4,074台(同92.4%)であった。登録車の車種別では、普通貨物車、特殊用途車、バスが前年同月を上回っている。
商店街	軽減税率対応、キャッシュレス対応で説明会や業者の来訪が相次いでいるが、加盟店の状況は対応済が3割程度であり、対応が急がれる。(大館市) 小売業は苦戦しており、先月末で婦人服店が閉店し、衣料品小売業は5店舗となった。サービス業、飲食業が存在感を増している。(湯沢市)
サービス業 (建築設計)	建築コンサルタント等の公募物件が数多く公告された。小規模な物件がほとんどであるが、活発化しているように見える。しかし、応募者のいない物件や価格競争で低価格入札も見られる。(中央地区)
サービス業 (旅行)	国内87.0%、海外119%で推移し、国内不足分を海外でカバーした。国内では遠距離(沖縄、四国)、海外は台湾が好調であった。
建設業 (電気工事)	前月同様、新築住宅着工件数は増えてはいるが、ハウスメーカーからの材料供給のため、電材会社も動きは悪い。電気工不足は相変わらずだが、工事店によって忙しさに格差がある。(中央地区)
運輸業 (トラック)	高値安定となっていた軽油価格が下がり、機械、鋼材を積む平車に動きがでてきた。運賃についても最近はずりつつ上昇しつつある。(中央地区)
その他の非製造業 (砂利)	生コン用骨材、路盤材用骨材は例年通りの出荷量であった。ダム工事関連が本格化すれば、川砂の出荷が多く見込まれる。(県南地区)